

麓山の杜 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195



へモクレンの芽が
ふくらんでいます

◆ 3月・4月のみどり講習会 ◆

日時：平成28年3月6日(日) 午前10:00~12:00

平成28年4月17日(日) 午前10:00~12:00

場所：とんがりふれあい館ホール

内容：記念樹の育て方初歩講座、季節のツボポイントがわかる

対象：記念樹申請者、受講希望者

◆ 4月のみどり教室 ◆

日時：平成28年4月10日(日) 午前10:00~12:00

場所：とんがりふれあい館ホール

内容：「樹木観察会、ハナカツミの講習会」

対象：受講希望者 ※事前要予約 受講料：無料



季節のガーデニングワンポイントアドバイス

【水やり】二月は、降水量もあり灌水が必要なかったようです。しかしこれから先、雨が少なく乾燥が続く時には必要です。特に植え替えた場合は根だけではなく樹冠全体にあげるようにします。乾燥防止に腐葉土などでマルチング（地面に敷いておく）をするといいですね。

【肥料】多くの樹種は、この時期の肥料が今後の生育を左右します。いわゆる寒肥です。緩効性有機質肥料がむいています。期間が迫ってきていますので、醗酵済みの骨粉入り油粕が適しています。肥料をあげると、春から伸びる芽の勢いと葉の色が格段に違います。自宅に植えてある樹木の勢いがない時は、肥料をあげてください。

【病虫害防除】アブラムシ、カイガラムシは退治がしにくい害虫です。幹などについている時は、ブラシなどでこすり取り、その後に殺虫剤を散布します。この季節だけに散布する事ができる薬剤にマシン油乳剤があります。この薬剤は、油の膜で害虫を窒息させて退治します。サルスベリやモチノキなどの発生しやすい庭木や果樹類に向いています。果樹農家でも使用しています。しかし常緑のツツジ類に使用した場合、落葉する葉害が出る場合があります。また、同じように冬季に散布する薬剤に石灰硫黄合剤がありましたが、葉害

などが出やすく、現在は使用されるのが少なくなりました。害虫は、卵などで越冬している場合もあります。それを取り除いておくことも大事な防除です。落ち葉なども処分しておきます。

【剪定】常緑広葉樹は、暖くなる3月下旬まで待ちます。剪定した後は、新芽がすぐに吹きだします。キンモクセイやサザンカなども、その後に花芽ができますので、適期に行いましょう。落葉樹は、新芽が吹きだすまでが適期になりますので、急いで終わらせるようにします。太い枝を切るなどの強めの剪定が可能です。切り口は癒合剤を塗って保護します。カエデ類は、時期が遅すぎます。切り口から樹液が流れ出て弱ってしまいます。花木は、蕾や花芽がありますので、注意をして剪定をします。針葉樹は、マツ類の枝透かしはむいています。古葉をとって込み入った枝を剪定するとすっきりとした樹形を楽しむ事ができます。キャラボクやチャボヒバは、今月からは刈込剪定が可能になります。切られた後は、赤茶色に変色しすぐに新芽が吹いてきますので、傷口が目立たなくなります。その他のコニファー類も同じです。

【植え替え】常緑広葉樹は、暖くなる今月からは可能です。常緑針葉樹は、新芽が伸び始めるまでが適期となっています。落葉樹は剪定と同様に早めに

すませます。ただし、カエデ類などは剪定作業と同じくむきません。しかし、この時期は多くの樹種で作業可能な最適期といえます。植え込む時には、腐葉土やパーライトなどの土壌改良剤を混ぜ込んで植穴はなるべく大きく深く掘るようにします。そうすることによって根が遠くまで伸びる事ができ、乾燥に耐え成長が見込めます。灌水は植えた時にもやりますが、その後も乾燥状態をみて水切れを起こさないようにします。それが活着のコツです。

【除草】 雪解け後には、雑草を見つけ次第取り除いておきます。そうすると春先からの雑草の繁茂が防げますし、肥料が吸収される心配もありません。草がいっぱい生えていると除草剤を使いたくなりますが、庭には極力用いないようにします。それでもどうしても場合は、接触吸収移行型の除草剤を使います。薬剤がかかったものだけに効果が現れ地面に落ちた薬液は無機物に変わる性質の除草剤です。薬剤を使い続けると土壌は悪くなってしまいます。



【カエデ類の剪定について】

剪定の項目でも書きましたが、適期は11月から12月にかけてです。それが年明けから剪定をすると切り口から樹液がとめどなくあふれ出ます。癒合剤などを塗る事もかなわず止める事は出来ません。そうすると樹勢が落ち込みカミキリムシなどの害を受けやすくなります。まるで樹木が涙を流しているような状況です。甘味料のメイプルシロップはカナダの国旗にも描かれているサトウカエデから採取される樹液です。国内のカエデ類からも採る事ができます。樹木は、寒さから自身の体を守るために糖度を増し、冬を乗り切ります。



【街で見かけた植物】

マンサク（マンサク科マンサク属）

落葉広葉小高木で北海道南部から九州にかけて分布します。春先に外の樹木に先駆けて咲く事「先ず咲く」、枝先までいっぱいにつける「満咲く」から名づけられたとも言われています。マンサクにも多くの種類が存在します。黄色だけではなく赤や白の花もあります。この写真のマンサクはアーノルドプロミスという品種です。黄色が鮮やかで自生種とは違います。



◆ みどりのつばき ◆

家の花壇のチューリップの小さな芽が顔を出し、クロッカスの白い花が咲きました。園内の花壇はモクレンの芽が、ふくらんできました。暖冬とはいえ、まだまだ吹く風が冷たいですね。暖かい日は、寒さで丸まった体を伸ばして、身近な春をさがしてみませんか。

